

**東久留米市 観光振興分析  
調査報告書  
(概要版)**

**平成28年2月**

**東久留米市**

## 1 調査の方法と流れ

本調査では、まず、第一に、文献調査等既存資料・データを基にした周辺基礎調査により、東久留米市の現状把握を行う。具体的には、既存の公開統計データ（文献調査）や地域経済分析（RESAS）のフレーム等を活用し、東久留米市の現状を把握すると同時に、一定の基準で選定した類似都市との比較分析（類似地域調査）を行い、東久留米市の特徴を抽出し、観光政策の観点から重点的に検討すべきポイントを整理することとする。

第二に、インターネット調査により、市外から見た東久留米市に対する意識調査を行う。ここでは基礎データを得た後、一定の分析を行うこととする。

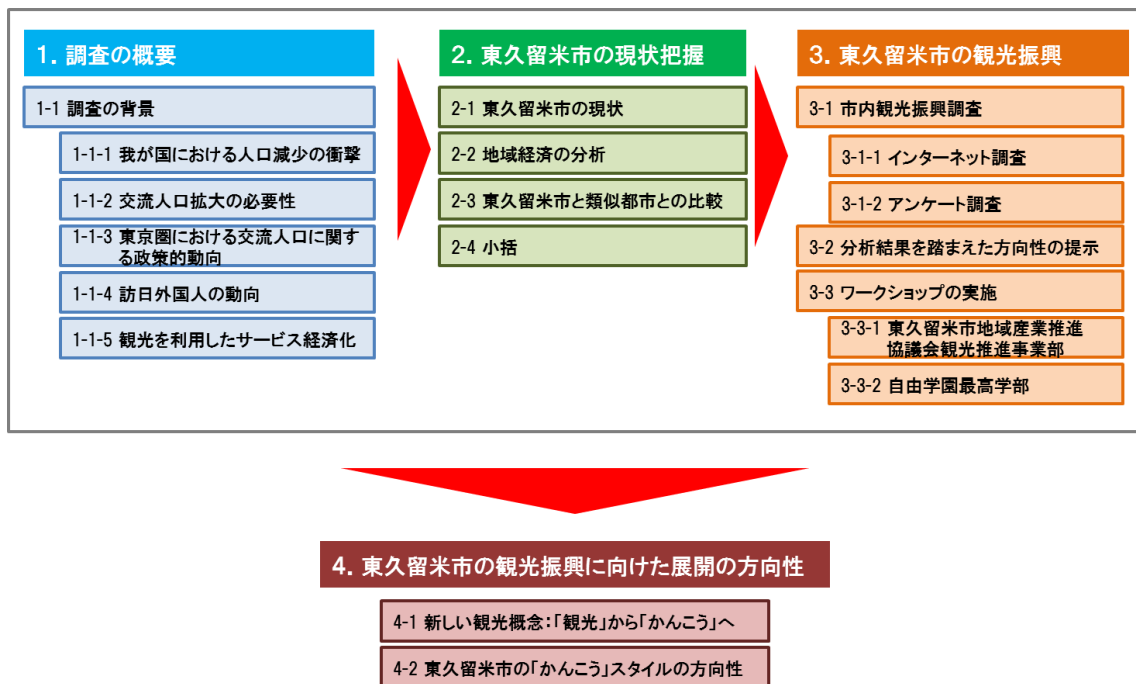
第三に、地域住民と地域外住民を対象としたアンケート調査を実施する。ここでは、地域住民と地域外住民が考えている東久留米市の現状と課題、満足度等について把握することに努め、基礎データを得た後、一定の分析を行うこととする。

第四に、上記の定量的なデータを踏まえつつ、東久留米市地域産業推進協議会観光推進事業部<sup>1</sup>及び自由学園最高学部においてワークショップを開催し、具体的な東久留米市の観光振興に資する方向性について多角的な視点から検討を行う。

そして第五に、各種調査結果を踏まえ、東久留米市の新しい観光概念の定義と、具体的な展開の方向性について提示することとする。

具体的な作業の流れとスケジュールは、次のとおりである。

図表 1 作業の流れ



<sup>1</sup> 以降のページでは、「地域産業推進協議会観光事業部」と呼ぶ

## 2 分析結果を踏まえた方向性の提示

本分析で行った東久留米市の現状把握と、インターネット調査及びアンケート調査を踏まえた分析結果から、次の3つの点で、取組み課題を抽出することができた。

### ◆ 強みを活かした地域の情報発信

都心から数十分の位置にありながら、昔ながらの建物や田畑、そして里山や清流があることの素晴らしさを市民目線で発信していくことが重要である。

### ◆ 認知度不足を覆す一点突破の必要性

自然の豊かさ、水の清かさだけでは、地域イメージを印象づけるだけのインパクトが弱い。自然、水を活用した東久留米市を印象づける取組みが必要である。

### ◆ 外部への発信強化とともに、市民の観光による地域活性化の理解の浸透

市民が良いと思うものを積極的に発信し、市民が地域へ様々な形で関わることにより、楽しそうな街、わくわくする街のイメージが自ずと発信されていくことに留意すべきである。

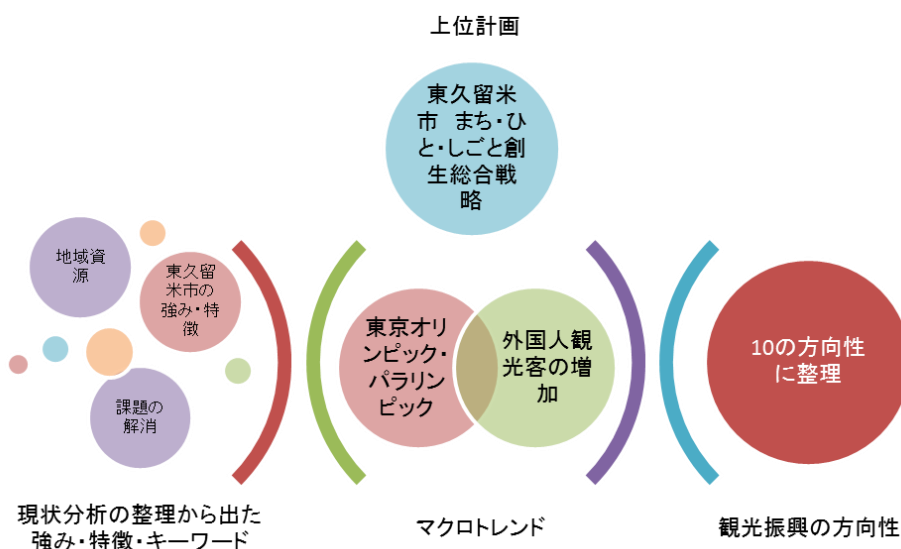
東久留米市の観光振興にあたっては、これらの取組み課題を解決していくことが必要となるが、より具体的な展開の方向性を策定していくために、これまでの現状把握及びアンケート調査結果から、「強み・特徴」と「課題」を抽出し、以下のとおり、キーワードとして整理することとした。

図表 2 現状把握とアンケート調査結果から整理できるキーワード

	強み・特徴		課題	
	分析結果	アンケート調査結果	分析結果	アンケート調査結果
人口・まち	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ベッドタウン（大規模団地が多数）</li> <li>● 都心からの好アクセス</li> <li>● 自然と暮らしが共存</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 暮らしやすいイメージ</li> <li>● 比較的新しいまちというイメージ</li> <li>● ゆかりのある人たちの関心が高く、古くからのコミュニティが継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢化の進行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市外居住者は東久留米市のイメージがつかみにくい</li> </ul>
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 湧水・名水</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然豊かなイメージ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市外居住者の訪問経験率が低い</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 川</li> <li>● 公園</li> <li>● 七福神</li> <li>● 散歩道</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● おまつりが市民に根付いている</li> <li>● 公園の認知度が高い</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 居住エリアにより差の大きい地域資源認知度</li> <li>● 市外居住者の訪問理由として観光・レクリエーションは低い</li> </ul>
その他の地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スポーツ施設</li> <li>● アニメ・漫画（コンテンツ）</li> <li>● 市民活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コカ・コーライーストジャパン 多摩工場</li> </ul>		
工業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高い付加価値額</li> <li>● 製造業・医療福祉従業者数の割合が高い</li> </ul>			
商業			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 商業消費の流出</li> </ul>	
農業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市内に産直所多数</li> <li>● 柳久保小麦</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 農家数の減少</li> </ul>	

前ページの整理、及び上位計画である「東久留米市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 28 年 3 月）（案）」における基本目標の達成、さらに昨今の未曾有の訪日外国人観光客の増加と、2020 年に開催される東京オリンピックといった大きなマクロトレンドを勘案すると、東久留米市が持つ既往の観光資源を活用することに加えて、新たな展開の可能性が広がることとなる。

図表 3 今後の観光振興の方向性の考え方



そこで、具体的には、既成概念にとらわれることなく、「観光」に対する様々な展開の可能性を追求することで、以下のような今後の東久留米市の取り組むべき観光振興の方向性を見出すことができた。<sup>2</sup>

- 「観交」は、文字通り、地域を問わない国内外の人々との交流を促進する。
- 「観康」は、昨今世代を問わず関心の高い健康にまつわる様々なコンテンツを活用する。
- 「観興」は、すでにある地域資源の価値を高める新たなビジネスにつなげる。
- 「観耕」は、農業とのコラボレーションによる新たな観光化を目指す。
- 「観好」は、アニメに代表されるサブカルチャーの振興による活性化を図る。
- 「観向」は、ICT を活用し、多様な形態の情報発信とイベントの立ち上げを進める。
- 「観攻」は、マイナースポーツを通じた集客と交流を狙う。
- 「観工」は、製造業を中心としたものづくりの観光コンテンツ化を展開する、
- 「観幸」は、ユニバーサルツーリズムの理念に則して、誰もが訪れやすい街を指向する。
- 「観貢」は、環境をはじめとした社会的資源の活用と保全を企図する。

<sup>2</sup> 方向性の提示にあたっては、以下の文献に依るところが多い。  
鈴木俊博（2015）「稼げる観光：地方が生き残り潤うための知恵」，ポプラ新書。

図表 4 東久留米市とかかわる観光振興の 10 の方向性

関わる視点	展開のポイント
①観交	国内外の人的交流
②観康	健康の増進
③観興	資源の高付加価値化
④観耕	農とのつながり
⑤観好	サブカルチャーの活用
⑥観向	サイバー上の交流
⑦観攻	マイナースポーツの育成
⑧観工	ものづくり・産業観光
⑨観幸	ユニバーサルな受入体制
⑩観貢	環境配慮、社会貢献

その上で共通して重要となる点は、東久留米市という地域との具体的な関わり方である。

少子高齢化社会の進展に伴い地域社会は構造は大きく変わりつつあり、そこに生じたインバウンド増加のインパクトは、日本の観光スタイルを大きく変えるきっかけになっているといえる。

人と人との交流は経済活動の原点であるが、それは日本だけに留まらず、世界、とりわけ今日的にはアジア圏を視野に考えることが重要となっている。

その中心地である首都圏にありながら、地域住民が「住んでよし」、と感じる地を高めていくためには、ネット社会におけるボーダレスの目線も加えることで、東久留米市の地が新たな価値観で評価されることが可能となるのである。

従って、これまでの誘客だけを目的とするのではなく、地元の人たちを中心として、地域と様々な形で関わることで、東久留米市の持つ地域資源から豊かな魅力を引き出し、地域や世代を超えた多様な人々の交流につなげていく、新しい観光の概念を創り出すことができるといえるのである。

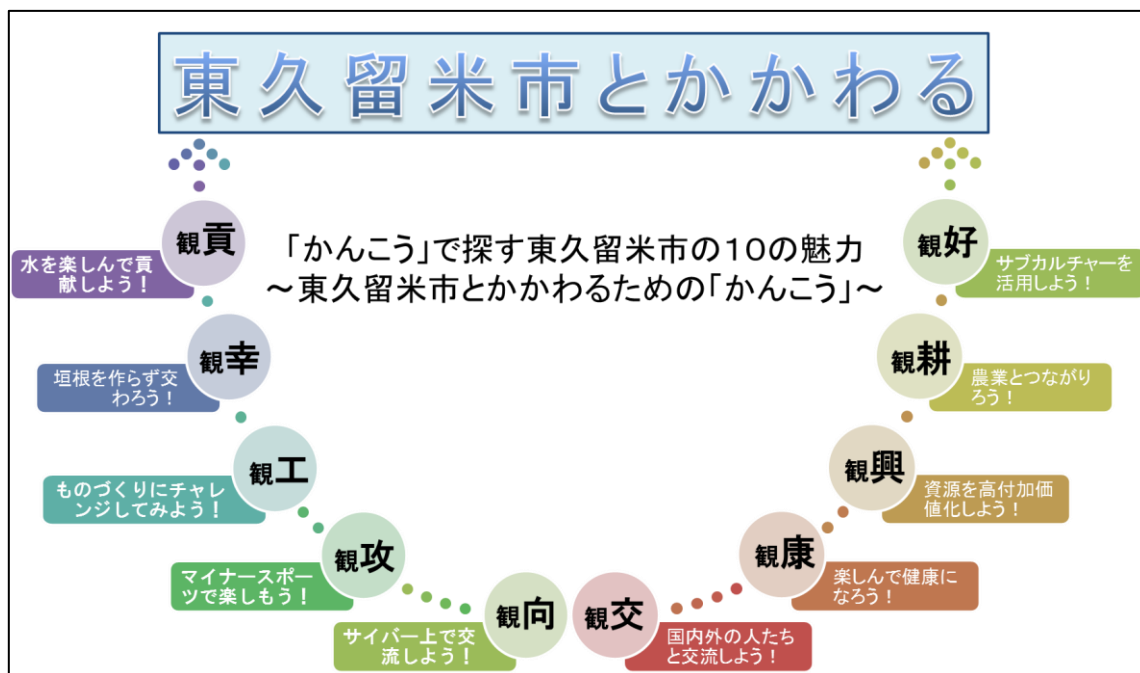
そこで、東久留米市の魅力を複合的な視点で捉え、その多様性を活用することが、地域の発展につながるといった東久留米市に相応しい観光スタイルを推進することが可能になると考えられるのである。

そこで、これら 10 の方向性について、次のワークショップによって、より具体的な形を方向性を彫琢するべく検討を行うこととした。

### 3 東久留米市の「かんこう」スタイルの方向性

これまでの調査分析の結果と、それらを踏まえたワークショップ等での検討の結果をもって、次年度以降の観光振興の方向性を事例を踏まえて次頁以降に提示する。

図表 5 観光振興の10の方向性



### 4 具体的な展開の方向性の提示（分析結果に基づく10の事業提示）

- 【01】 水資源を活かしたアジア・太平洋水フォーラムの誘致を目指す／市民型 MICE の事業展開
- 【02】 マイナススポーツをメジャーに！／東京オリンピックを目指したスポーツ・ツーリズムの推進
- 【03】 東久留米市内に手塚ワールドを「O2O」で全面展開
- 【04】 テクノで柳久保うどんを踏んで踊ろう！／若者を大量に東久留米市に招くイベント企画プロジェクト
- 【05】 平成の名水100選を軸とした地域間交流（MtoM）の推進
- 【06】 NIPPON の中心で TOKYO LOCAL (TYO LOCO) を楽しむ
- 【07】 今あるものを違った角度で紹介「新七福神めぐり（仮称）」
- 【08】 「参加者」を「旅行者」に！ウォーキングラリーとアプリ開発、ウォーキング大会の実施により、ウォーキングのまち東久留米を展開
- 【09】 マルシェのあるまち 東久留米「ひがしくるめマルシェ」の展開
- 【10】 パラリンピック選手団誘致を含めた障害者スポーツ推進

平成 28 年 2 月

「東久留米市観光振興分析」調査報告書

東京都東久留米市市民部産業政策課

電話 042(470)7743